

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年							2025年													
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ～2日	11月 ～9日	11月 ～16日	11月 ～23日
カンピロバクター	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	22	23	36	38	43	27	27	6	7	5	3
病原性大腸菌	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	91	71	93	78	97	83	48	10	12	9	8
腸管出血性大腸菌	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	2	3	3	2	0	1	0	0	0	0
サルモネラ	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	3	6	11	12	11	11	1	0	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	8	9	16	8	28	10	20	2	2	1	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	13	9	11	5	16	10	10	4	2	1 (2)	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
その他	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	1	1	2	2	2	1	0	0	0	0
ロタウイルス	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	4	2	1	1	0	0	0	0	2	1	0
ノロウイルス	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	10	6	2	2	0	3	0	1	0	0	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報

令和7年第47週(11月17日~11月23日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5			3		1		1
三類	0	発生なし	0							
四類	4	つつが虫病	1	1						
		レジオネラ症	3					2		1
五類	19	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1
		梅毒	6			1	1	4		
		百日咳	12	4				2		6

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部 … 三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年47週(11月17日～11月23日)

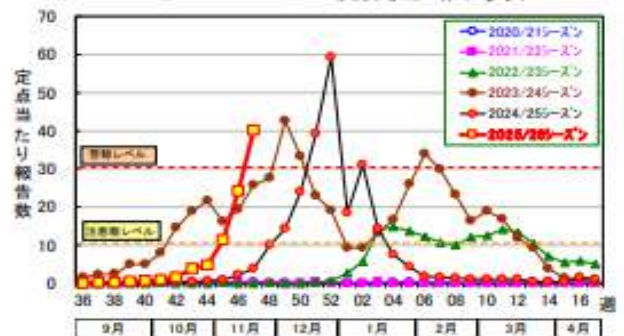
■コメント

1 インフルエンザ

定点当たり40.03人の報告があり、警報レベル(定点当たり30.0人)を上回りました。11月に入って急速に増加しており注意が必要です。インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は44件報告されています。手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)
第47週 A型:316人、B型:1人

インフルエンザの流行状況(広島市)



2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり3.33人の報告があり、多い状況が続いています。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

3 流行性角結膜炎

定点当たり2.13人の報告があり、多い状況が続いています。アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎で、感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり2.95人の報告があり、多い状況です。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間 平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間 平均(注)	発生記号	急増減	増減	微増減	横ばい	前週と比較しておおむね 1.2以上の増減	前週と比較しておおむね 1.15~2の増減	前週と比較しておおむね 1.11~1.5の増減	ほとんど増減なし								
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	3213	91.80			小児科	突発性発しん	2	0.09	0.19																	
	インフルエンザ	1401	40.03	5.92			ヘルパンギーナ	-	-	0.21																	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	22	0.63				流行性耳下腺炎	1	0.05	0.03																	
小児科	RSウイルス感染症	16	0.73	0.05		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-																	
	咽頭結膜熱	10	0.45	1.06			流行性角結膜炎	17	2.13	0.63																	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	2.95	1.40		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-																	
	感染性胃腸炎	105	4.77	3.68			無菌性髄膜炎	-	-	0.03																	
	水痘	7	0.32	0.16			マイコプラズマ肺炎	20	3.33	1.57																	
	手足口病	3	0.14	0.94			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-																	
	伝染性紅斑	14	0.64	0.02			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-																	
												報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。															
												<table><tr><td>急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)</td><td>35</td></tr><tr><td>小児科定点数</td><td>22</td></tr><tr><td>眼科定点数</td><td>8</td></tr><tr><td>基幹定点数</td><td>6</td></tr></table>								急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	35	小児科定点数	22	眼科定点数	8	基幹定点数	6
急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	35																										
小児科定点数	22																										
眼科定点数	8																										
基幹定点数	6																										
												(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)															

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	104	70歳代
4	レジオネラ症	2	30	60歳代、80歳代
5	梅毒	4	139	20歳代・1人、30歳代・2人、60歳代・1人
5	百日咳	2	1013	20歳代・2人